

# 音楽科学習指導案

廿日市市立野坂中学校  
教諭 秋本 摂子

1 学年・学級 廿日市市立野坂中学校 第3学年4組 (36名)

2 題材名 「日本の伝統音楽に親しもう」  
○ 舞楽『陵王』 左舞  
○ 管絃『越天楽』 平調

### 3 題材の目標

- 雅楽に興味・関心をもち、今なお伝承されている貴重な文化遺産としてこれを尊重しようとする。  
【音楽への関心・意欲・態度】
- 雅楽の楽器の音色の美しさや独特の響き、ゆったりとしたテンポなど、日本の伝統音楽の特徴を感じ取る。  
【音楽的な感受や表現の工夫】
- 楽器の音色や雅楽独特の響き等を、背景となる歴史・文化等とかがかわらせて、鑑賞する。  
【鑑賞の能力】

### 4 題材設定の理由

#### ○ 題材について

本題材は、音楽の世界を広げていくとともに、自分にとって価値ある音楽を発見するという観点から、中学校学習指導要領 B鑑賞(1)エ「音楽をその背景となる文化・歴史との関わりなどから、総合的に理解して聴くこと」を主な指導事項としている。

舞楽は、5世紀から9世紀にかけて、中国や朝鮮半島などアジア各地から伝わった舞とその伴奏音楽が、日本に古くから伝わるものと互いに影響を及ぼしあいながら、独自の様式に発展して生まれたものである。舞楽(舞が伴うもの)、管絃(合奏だけのもの)、歌が中心となるもの、という現在の様式は、10世紀ごろに完成されたといわれている。

舞楽『陵王』は、左舞の一つで『蘭陵王』とも呼ばれる。550年頃の中国に実在した王の故事によると、古代中国・斉の国の蘭陵王長恭は武勇才知に長けた美青年であったので、味方の志気を高めることができず、戦場ではいつも厳めしい龍の仮面をつけて軍を指揮したという。それによっておさめた勝利の喜びを舞に表したところ、国土は豊かになり世の中が平和になったという。この故事に基づき、龍の面をつけた一人の舞人が、金色の桴を持ち、勇壮華麗に舞う。伴奏楽器には、吹き物から笙・箏・篳篥・竈笛、打ち物から鞀鼓・太鼓・鉦鼓が用いられる。これを平清盛が宮島に伝え、現在まで受け継がれてきた。地域が誇る「世界遺産」である宮島に残る舞楽に触れ、日本の伝統音楽への興味・関心を啓発するという点から取り上げた作品である。

管絃『越天楽』は、平安時代の初期に宮中の儀式や典礼のための音楽として整えられたものである。雅楽のレパートリーの中では最もよく知られた曲で、用いられる三管両絃三鼓の楽器の特徴や役割などについて理解させやすいという点から取り上げた曲である。

本題材では、伝統的な日本の音楽である舞楽と管絃に触れることによって、日本古来の音楽の魅力を感じ取らせ、これらに親しむ態度を育てることをねらいとしている。また、歴史や背景、そして現在どんな場面で雅楽に触れることができるかなどについて知ることにより、今なお伝承されている我が国の音楽文化について、貴重な文化遺産を尊重しようとする態度を育てたいと考え、本題材を設定した。

## ○ 生徒について

中学生をとりまく環境には、様々なジャンルの音楽があふれている。生徒達は、その中から自分の趣向や方法で、多種多様な音楽の楽しみ方をしている。本校3学年の生徒は2学年時に箏を扱い、「さくらさくら」の演奏や、合いの手の創作活動を行った。自国の音楽でありながらも、日常的にあまり触れることのなかった日本の楽器や音楽に対して、かえって新鮮な音としてとらえ、驚きとともに高い興味や関心を示して取り組むことができた。しかし、文化として伝統音楽と、自らのかかわりについて考えさせるという点においては不十分で、それらを伝承していこうとする姿勢を高めるまでには至っていない。そこで、自分たちの住んでいる廿日市市に残る、文化遺産として有名な宮島 巖島神社に伝わる舞楽『陵王』について、その歴史に触れることによって、自分たちが伝承していくべき次の担い手であることを意識させることが重要と考える。

本校は宮島の対岸に位置し、巖島神社とはゆかりの深い地御前神社を校区内にもっている。毎年行われる管絃祭におとずれる生徒は多く、雅楽の楽器に関して詳しくは知らないものの、“儀式としての雅楽”を何気なく見聞きしている生徒は多い。そういった地域の特徴を再認識させ、文化としての音楽とのかかわりについて考えることが重要と考える。

## ○ 指導について

指導にあたっては、映像や音を通して、生徒自身が興味・関心をもったことを切り口とし、それらをきっかけにして学習活動を展開する。

まず、舞楽『陵王』については、観光パンフレットなど、身近に使われている写真等を参考に、興味・関心をもたせ、舞踊の動きに着目して映像を鑑賞させ、舞楽のイメージをつかませる。続いて、歴史や背景、物語のあらすじなどを知らせることで、生徒自身が心情的な感じ取りを深め、貴重な文化遺産として尊重する気持ちをもたせることができると考える。次に、伴奏音楽に着目させるきっかけとして、箏・笛によるテーマや笙の構成和音を、アルトリコーダーを使って模倣演奏させる表現活動を取り入れ、箏の音色との比較聴取をさせることで、雅楽の独特の響きやゆったりとしたテンポなど、雅楽の持つ雰囲気味わわせる。ここではグループでの話し合い活動を取り入れ、個々の気付きを共有させることで、より多くの特徴を感得させる。さらに、舞楽の見どころや聴きどころについて、自分の言葉で表現させ、それを交流し合うことによって、舞と音楽が一体となった舞楽の魅力を味わわせたい。

管絃『越天楽』については、用いられる楽器の形状、奏法、分類、合奏における役割などについて理解させ、それぞれの楽器の音色を意識して聴かせることによって、独特の響きや拍節のないリズムなど、管絃のおもしろさに気付かせていく。さらに、雅楽の伝来と定着や貴族達の生活とのかかわり、現代の生活にも使われている言葉があることなどをおりませながら、作品をくり返し視聴させることで、日本古来の音楽の魅力を感じ取らせ、貴重な文化遺産を尊重する態度を育てていきたいと考える。

## 5 題材の評価規準

|                   | 音楽への関心・意欲・態度   | 音楽的な感受や表現の工夫  | 鑑賞の能力   |
|-------------------|--|---|---|
| 題材の評価規準           | <p>雅楽に興味・関心をもち、意欲的に聴き、貴重な文化遺産としてこれを尊重しようとする。</p>   | <p>雅楽の楽器の音色の美しさや独特の響き、ゆったりとしたテンポなど、日本の伝統音楽の特徴を感じ取っている。</p>  | <p>楽器の音色や雅楽独特の響き等を、背景となる歴史・文化等とかがわらせて、鑑賞する。</p>   |
| 学習活動における具体的な評価規準  | <p>① 舞楽『陵王』の鑑賞を通して、雅楽の楽器の音色や舞と音楽とのかかわりに関心をもち、意欲的に舞楽を視聴している。</p> <p>② 管絃『越天楽』の鑑賞を通して、我が国の伝統音楽が持つ音楽の特徴に関心をもち、意欲的に聴いている。</p> <p>③ 雅楽を貴重な文化遺産として尊重しようという気持ちをもって、意欲的に聴いている。</p> | <p>① 舞楽『陵王』の鑑賞を通して、箏の音色の特徴や舞と音楽とのかかわりに気づき、舞楽の表現の味わいを感じ取っている。</p> <p>② 管絃『越天楽』の鑑賞を通して、雅楽に使われる楽器の特徴や、その響きを感じ取っている。</p> <p>③ 管絃『越天楽』の鑑賞を通して、打ち物・吹き物・弾き物とのかかわり、リズムのパターン、旋律の重なりなどを知覚し、曲想の変化を感じ取っている。</p> | <p>① 舞楽『陵王』、管絃『越天楽』について、用いられる楽器の音色や独特の響きを感じ取りながら、雅楽の歴史や背景と関連付けて、楽曲全体を味わっている。</p>  |
| <C>と判断される状況への働きかけ | <ul style="list-style-type: none"> <li>「日本の古い時代の音楽の雰囲気をつかもう」「どのような点が日本の伝統音楽をイメージさせるのかな？ その音の材料が曲のどこかにあるはずだよね」など、関心が高まるような視点を伝える。</li> </ul>                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>「あなたの第一印象は？」「曲の微妙な雰囲気を感じ取ろう」「舞人の動きと合奏の音と何か関係はないかな」「楽器が重なったときの響きに耳を傾けてごらん」など、教師との対話を通して考えさせる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>「曲のテンポや強弱に変化はないかな」など、楽器の奏でる旋律の響きのよさや、楽器の音の重なりと響きの美しさなど、聴くときのポイントを絞って意識付ける。</li> </ul>                    |
| <A>と判断するキーワード     | <ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な感想や根拠のある意見を積極的に記述している。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>楽器と楽器との音の重なりや響きを、具体的なイメージとかがわらせて、根拠のある記述をしている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>多くのよさを発見し、雅楽の特徴について、曲から受けた自分の思いを記述している。</li> <li>自分の好みをのべるだけでなく、楽曲についての解釈と感受したことを結びつけて記述している。</li> </ul> |

6 指導と評価の計画（全 3 時間）

| 次            | 教材             | ねらい  | 学 習 活 動  | 指導上の留意点   | 具体的な<br>評価規準              | 評価方法                          |
|--------------|----------------|--|--|---|---------------------------|-------------------------------|
| 第1次<br>(1時間) | 舞楽『<br>陵王』     | 感じ取ろう  | ○『陵王』が生活の<br>色々な場面で使われ<br>ていることを知る。  | ○舞楽『陵王』の面や装束の写<br>真を見て、身近な伝統音楽につ<br>いての動機付けとする。<br>○宮島において、今もなお伝承さ<br>れていることを理解させる。   | 関一①<br><br>感一①            | ワークシート<br><br>記述法             |
|              |                | 千三百年の<br>雅楽の響き<br><br>【本時】   | ○舞楽『陵王』を鑑<br>賞する。<br>①舞の表現を視て<br>②箏の主題を聴き<br>取って（映像なし）<br>③舞と音楽との関わり<br>を感じ取って<br>○舞楽『陵王』の魅<br>力を発表しあう。  | ○3段階に分けて鑑賞させる。<br><br>①舞踊に着目して“興味をもつ”<br>②主題を演奏する箏の音色の<br>特徴を“感じ取る”<br>③舞と音楽を結びつけて作品全<br>体を“味わう”<br>○舞楽の代表的な作品に触れ、特<br>徴やよさを感じ取らせる。 |                           |                               |
| 第2次<br>(2時間) | 管絃『<br>越天楽』    | 味わおう   | ○雅楽の歴史やその分<br>類について知る。<br>○雅楽についての認識<br>を高める。  | ○雅楽の伝来と定着について理解<br>させる。<br>○雅楽が平安時代の貴族達の生活<br>にいかに関わっていたかを知ら<br>せる。   | 関一②<br><br>感一②            | ワークシート<br><br>記述法             |
|              |                | 千三百年の<br>雅楽の楽器   | ○管絃に用いられる楽<br>器について知り、その<br>音色を味わって聴く。   | ○「三管両絃三鼓」について、<br>それぞれの楽器と、特徴、分類、<br>主な役割などについて知らせ、<br>その音色を味わわせる。  |                           |                               |
|              |                | 受け継ごう  | ○管絃『越天楽』を<br>鑑賞する<br>①楽器の役割を感じ<br>取って<br><br>②舞楽との拍節の違<br>いを感じ取って  | ○前時に学習した楽器が、それぞ<br>れどのような役割を果たし、組<br>み合わさることによってどんな<br>響きを生み出しているかに注意<br>させる。<br>○鞆鼓のリズムを模倣し、拍節が<br>感じられる舞楽との違いに気付<br>かせる。          | 関一③<br><br>感一③<br><br>鑑一① | ワークシート<br><br>表現観察<br><br>記述法 |
|              | 千三百年の<br>雅楽の魅力 | ○雅楽に縁のある言葉<br>などについて学習し、<br>雅楽が私たちの生活<br>につながっているこ<br>とを感じ取る。<br>○舞楽『陵王』・管絃<br>『越天楽』をもう<br>一度聴き、学習のまと<br>めをする。 | ○「調子」など雅楽で使われて<br>いる意味と、私たちが生活の中<br>で使っている意味とを比べなが<br>ら、脈々と受け継がれる文化に<br>思いを馳せさせる。<br>○第1次で聴いたときのイメージ<br>と、現在の感想を比較し、個々<br>の変容を確認し合うようにさせ<br>る。 |   |                           |                               |

## 7 本時の学習（第1次1時間）

### (1) 本時の目標

- 舞と音楽とのかかわり、箏の音色の特徴を感じ取り、興味・関心をもって舞楽『陵王』を鑑賞する

### (2) 本時の評価規準

- 舞と音楽とのかかわり、箏の音色に関心を持ち、意欲的に舞楽『陵王』を視聴している  
【音楽への関心・意欲・態度】
- 主旋律を演奏する箏の音色や旋律の特徴に気付き、舞と音楽とで表現される舞楽の味わいを感じ取っている  
【音楽的な感受や表現の工夫】

### (3) 学習指導の展開

| 学習活動   | 指導上の留意事項   | 評価規準 | 評価方法 |
|--|--|------|------|
| 1 舞楽『陵王』の面(写真)等を見て、互いの気付きを出し合う   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・土産物の包装紙、廿日市市職員の名刺等に使用されている具体例を示し、興味付けを図る。</li> <li>・気軽に発言できる雰囲気をつくり、知っていたことや気付いたことを共有させる。</li> <li>・生徒の発言から宮島と結びつけ、巖島神社で舞われていることを紹介する。</li> </ul>          |      |      |
| 2 本時のねらいを確認する  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・千三百年もの間、受け継がれてきた雅楽が、地域で伝えられていることをおさえ、学習意欲を高めさせる。</li> </ul>  |      |      |
| <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>感じ取ろう 千三百年の 雅楽の響き<br/>舞楽『陵王』</p> </div> |  |      |      |
| 3 舞楽『陵王』を鑑賞する<br>① 興味を持つ<br>舞に注目しながら、舞楽を視聴し、気付いたことや感じたことを記録したり、発表したりする<br>個 → 全体に意見を広める  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・舞楽の出会いとなる第一段階として、動きが華やかな部分を鑑賞させ、舞に興味をもたせる。</li> <li>・装束や面、舞の動きが何を表しているのかを想像しながら鑑賞するようにさせる。</li> <li>・自由な発想を交流した後、舞楽『陵王』のもととなった故事に触れ、あらすじを理解させる。</li> </ul> |      |      |

|  |  |                           |                          |
|--|--|---------------------------|--------------------------|
| <p>② 感じ取る<br/>『陵王』の主題をアルトリコーダーで演奏し、箏の音色と聴き比べた後、音楽だけを聴いて、箏の音色の特徴を感じ取る<br/>個 → グループ → 全体に意見を広める</p> <p>③ 味わう<br/>『陵王』の故事を思い浮かべながら、もう一度映像で味わう</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・箏とアルトリコーダーの音色の違いについて、「～みたい」等の比喻、「ビィ～」等の擬音語、形容詞等使って具体的に表現するよう助言する。</li> <li>・グループで意見交流させ、感じ取り方の幅を広げさせる。</li> <li>・舞と音楽を結びつけて作品全体を味わわせる。</li> </ul>  |                           |                          |
| <p>4 舞楽『陵王』の見どころや聴きどころを、紹介する文を書く</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮島の観光客に紹介するつもりで書くよう促し、地域が誇る文化であることを意識付ける。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>舞楽『陵王』の紹介文には、次の条件を必ず入れる</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 曲のあらすじを簡単にまとめて書く</li> <li>② 舞の見どころ・聞きどころを書く</li> <li>③ 西洋の笛（アルトリコーダー）と箏の音色を比較したことを書き、箏の音色にどんなおもしろさを感じたか、その理由も書く</li> </ol> </div> | <p>関 - ①</p> <p>感 - ①</p> | <p>ワークシート</p> <p>記述法</p> |
| <p>5 発表し合って交流する</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・舞と音楽のかかわり、箏の音色のおもしろさについて具体的に書いている部分を肯定的に評価する</li> </ul>  |                           |                          |
| <p>6 次時の活動を知り、心構えをもつ</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時は、その他の楽器の音色や役割についてさらにその魅力に迫り、意欲を高めさせるような言葉かけをする</li> </ul>   |                           |                          |